自閉症傾向から見た「心の理論」の自発性

福田 春奈¹・梅田 聡²

(¹慶應義塾大学大学院社会学研究科・²慶應義塾大学文学部)

キーワード: 心の理論・自閉症スペクトラム障害・自発性

Spontaneous “theory of mind” in autism personality traits

Haruna FUKUDA¹, Satoshi UMEDA²

(¹ Graduate School of Human Relations, ² Department of Psychology, Keio University)

Key Words: theory of mind, autism spectrum disorder, spontaneous processing

目 的

近年、自閉症症例において誤信念課題のような従来の心の理論課題を通過する傾向が報告されている(Shamay-Tsoory, 2008)。一方で、課題を通過しているにも関わらず、日常生活における対人コミュニケーションには依然として困難を抱えていることが示されている。参加者に回答を求めない形式の心の理論課題を用いた研究によって、自閉症症例における“自発的に”他者の心情の推測を開始する傾向の乏しさが、社会的場面における困難に繋がっている可能性が示唆された(Senju et al., 2009)。

本研究では、実生活における心の理論の自発性を自閉症スペクトラム上で捉えることを目的とした。自閉症スペクトラム障害傾向の高い者が日常生活において“自発的に”他者の心的状態を推測することに困難を示すという仮説に基づき、独自に作成した映像刺激を用いて検討した。日常生活場面をテーマとした映像内に心の理論課題を埋め込むことによって、日常生活で行わなくてはならないような必要に応じて自発的に他者の心的状態の推測を行う状況を擬似的に再現した。

方 法

参加者 20代の大学生30名(うち男性19名)が参加した。
装置 刺激の呈示にノート型パーソナルコンピュータを用いた。表示画面の大きさは14.1インチであった。
手続き 参加者は、大学生の一日をテーマとした心の理論課題を含む映像を視聴した。実験者が映像を途中で何度か停止し、その都度映像の主人公の心情についてできるだけ詳しく回答するよう求めた。参加者は心情の推察を求められる対象(映像内の主人公は場面によって変化した)とその質問数、および、映像の停止箇所については事前に知らされなかった。映像中の心の理論課題には、手がかりへ注意を向けることによる他者の心的状態の理解を反映する要素(例:主人公が立ち上がり教室の外に向かう)と、主に文脈把握による他者の心的状態の理解を反映する要素(例:主人公が借りようと思っていた本を、別の人が持って行ってしまう)の2種の項目が含まれていた。文脈把握項目は手がかり注意項目に比べ、より自発性を反映する場面を含む項目であった。映像の停止箇所は全部で20か所であった。映像課題の後、参加者は自閉症質問紙(AQ)、社交不安障害検査(SAD)、多次元共感測定尺度(IRI)に回答した。

課題の評価 心の理論に関する各質問について、妥当だと考える解答を正答とし、その基準に当てはまるものを1点、当てはまらないものを0点として、心の理論課題成績正答率を算出した。心の理論課題の回答評価は、実験者を含む2人の評定者によって行われ、評定者間の一致率は全体で93%であった。データの分析には、評定者間で評価が一致した項目のみを使用した。正答率95%以上の項目、および、映像不備の項目を除外し、最終的に12項目を解析に使用した。

結 果

本実験では、AQの83%カットオフポイントである26点(Woodbury-Smith et al., 2005)をもとに、それ以上をAQ高群(N=10)、22点以下をAQ低群(N=19)とした。分散分析の結果、AQ低群とAQ高群間で文脈把握による心の理論課題の正答率に有意差が認められた

($F(1, 27)=4.46$, $p<.05$)。AQ低群とAQ高群間で手がかりへの注意を向けることによる心の理論課題の正答率において有意差は認められなかった($F(1, 27)=1.56$, $n.s.$)。IRI質問紙、SAD質問紙のいずれも心の理論課題の正答率との間に相関は認められなかった。

考 察

本研究では、自閉症傾向の高い参加者において、文脈把握による心の理論課題の正答率が有意に低いことが明らかになった。この結果から、自閉症症例においては自発的な他者心情の推測が乏しいために、円滑なコミュニケーションや良好な社会関係を築くことに困難が生じている可能性が示唆された。文脈把握の達成には、複数人の心的状態を並行かつ継続的に処理するばかりでなく、必要に応じて柔軟に注意の対象を移動させ、それぞれの意図を統合して理解することが求められる。自閉症症例における他者の心情把握プロセスは、ルールに基づく学習の結果獲得されたものであり、自動的に駆動させることが難しいと考えられている。本研究において示された日常生活場面における文脈把握の困難は、これを支持するものである。

また、IRI得点、SAD得点ともに心の理論課題の正答率との間に相関が認められなかった。このことから本研究で用いた映像刺激は、特に、IRIで測定されるものとは質的に異なる共感性を含んだ課題であると考えられた。

本研究から、日常により近い場면을題材とした課題が今後より精度の高いスクリーニングテストとして発展しうる可能性が示唆された。

引用文献

- Senju, A., Southgate, V., White, S., & Frith, U. (2009). Mindblind eyes: An absence of spontaneous theory of mind in Asperger syndrome. *Science*, **325**, 883-885.
 Shamay-Tsoory, S. (2008). Recognition of ‘fortune of others’ emotions in Asperger syndrome and high functioning autism. *Journal of Autism and developmental disorders*, **38**, 1451-1461.